



寺報

2024年(令和6年)

No. 345

8月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁



高名なお坊さん(その32)

三蔵法師・玄奘(西暦602年~664年) 中国唐代の学問僧

「三蔵法師」の「三蔵」は、「経蔵」「律蔵」「論蔵」で、仏典を中国の言葉に翻訳した翻訳者を三蔵法師という。玄奘といえば、三蔵法師の中の三蔵法師である。

玄奘は、仏教の聖地インドで釈迦の教えを学ぶ為、国禁を犯して長安を出発(26歳)。西域から中央アジアをへてインドへ求法の旅に出た。

天山北路を通り、高昌国(トゥルファン)を経て、西突厥の援助などを受け、サマルカンド、アフガニスタン、西北インドへと進んだ。しかし、かつての仏教の聖地ガンダーラはすでに荒廃しており、ガンジス川中流域のナーランダーを訪れて、5年間勉学に没頭した。17年の歳月の後、多数の經典や仏像を携えて帰国。玄奘が長い旅路の末にもたらしたのは、多くの經典類をはじめとして、シルクロードという未知の世界の情報だった。

三蔵の称号を受け經典の漢訳にあたり、75部1335巻の仏典を完成させる。弟子に編述させた『大唐西域記』は、當時を知る重要な資料であると共に、人々は異郷への夢と憧れと冒険心をかきたてられたのである。

偉大なる宗教家であるとともに、100を越える国を歩いてその見聞を著わし、旅行家としても、また国際交流の先駆者としてもその存在は大きい。

現在では長編小説『西遊記』の三蔵法師のモデルとして親しまれている。



東儀秀樹さん(2000年5月16日)

本雅樂のルートともいわれている樂器が描かれた、第三十
八窟です」とお伝えし、その続きを後日談です。

住職レター

先月の住職レターにて、「キジル千仏洞のハイライトは、日本のうち第三十八窟は『樂舞洞』の名で知られ、伎樂天のもう一つのモデルである」とお伝えし、その続きと後日談です。

キジル千仏洞は、後漢から宋代にかけて開窟されたもので、現在は二百三十窟が確認され、仏殿と僧房で構成。そのうち第三十八窟は『樂舞洞』の名で知られ、伎樂天のもう一つのモデルである。この窟は、日本に伝来した樂器は、横笛、琵琶、ひちりきなど、日本の雅樂のルートといわれています。琵琶はペルシア・アラビアを起源に、インド・西域・中国を経て、奈良時代に日本に伝来。シルクロードは様々な物資の交易だけでなく、宗教や文化、音楽まで伝わってきました。

當時私は雅樂を密かなマイブームにしていました。寺の本堂で法要の前には、雅樂をながしていました。帰國後、広島で行われる、東儀秀樹さんのコンサートに行きますと、当時の旅行記に書いていた程です。

十六日、ウルムチから西安への飛行機で、なんと雅樂奏者の東儀秀樹さん、ご本人にお会いしました。NHKの撮影でウルムチへ滞在されていたとのこと。西安では、日本からのコンサートツアーがあると言わっていました。

旅の終盤、大きなサプライズに遭遇。五月の旅行記に書いていた程です。當時私は雅樂を密かなマイブームにしていました。寺の本堂で法要の前には、雅樂をながしていました。帰國後、広島で行われる、東儀秀樹さんのコンサートに行きますと、当時の旅行記に書いていた程です。



第三十八窟『樂舞洞』



1日目【2000年4月14日】

全37日間

ニーハオ！〈広島～上海～西安〉

住職を継職し早や5年が経過。日々の法事や葬式を勤めることで精一杯だった頃、三蔵法師・玄奘が通った、シルクロード佛教遺跡を旅してみたいと思い立った。日常の寺の業務はすべて忘れた上で、佛教の原点に立ち帰り、僧侶の歩む道を見つけてきたいと。

2000年4月14日、広島空港から上海経由で西安へ向かった。旅先は中国、しかも西域のシルクロード。欧米やハワイなどのように観光地化されていない、海外旅行に馴れた人でも慎重になるような場所。様々な困難が予想されたが、この時は、高揚感に浸っていた。

この時期、中国への旅行者は少ないので、乗客は20人くらいであった。2時間のフライトの後、上海空港にて入国手続きを済ませ、また同じ飛行機に搭乗し、西安空港へ到着。しかし、リムジンバス乗り場には、バスは無く、来る気配すらなし。前途多難さを思わせる事態に、早速遭遇した。疲れもあり、やむなく、タクシーに乗車。ホテルまで約1時間。料金は150元、日本円で約2,200円。痛い出費である。

今回の旅は、往復の航空券と中国滞在ビザ、西安で5日間のホテルの手配を、広島市内の旅行会社に依頼した。ゆえに最初の5日間だけは、なんとか生活が保障されていたという訳である。

西安へ降り立ち、急に不安が襲ってきた。



西安の街



「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要

(善教寺本堂)

八月十六日(金)午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

(本願寺布教専従員)

講師 中村啓誠師

八月十日(土)

午前十時 午後一時半 朝席

「盂蘭盆会法要」

(善教寺本堂)

今後の法要スケジュール

「盂蘭盆会法要」

(柏原説教堂)

八月二十三日(金)

午後一時半 昼席

午後四時 夕席

